

～ ご 挨拶 ～

関西大学副学長

岩 見 和 彦

「言語への関心は好奇心の範囲を越えている。関心どころか情熱といってもいい。理由は明白だ。言語は、心のもっとも見えやすい部分である。言語について知りたいと思うのは、言語について知ることが、人間の本質を知ることにつながると期待するからである」(スティーブン・ピンカー)。人間が人間＝言語を知りたいと思うこの情熱と、その情熱によって知りえたことを他者にも知ってもらいたいと思う情熱が、大学教育の根幹にあることは言うまでもありません。今日、日本の大学は様々な揺らぎの渦中にありますが、大事なのは、無用な揺らぎと意味ある揺らぎを峻別することでしょう。「知」を希求する情熱による揺らぎは、大学の発展にとってなくてはならないものであるはずです。

今春、本学の外国語教育学研究科は、外国語というもう一つの言葉の研究を介して、人間コミュニケーションの謎に迫り、そのコミュニケーション能力の教育可能性を具体的に追求するという目的をもって、誕生いたしました。今回の記念シンポジウムの開催が、関西大学のそのような自覚と情熱の表明の機会となり、多くの同志の方々のご支援とご協力を頂戴する機会ともなることを、心より期待したいと思います。